

平成30年度 大垣市立北中学校 学校評価

No	短期経営目標	目標達成のための方策	教師評価	生徒の評価項目・目標値	生徒評価	自己評価	学校関係者評価	改善策	
確かな学力の育成	1	○一人ひとりを大切にしたい授業を目指し、徹底した授業改善と思考が深まる学び合う学びの確立に取り組む。	・授業では、必ず課題やポイントを提示し、終末時には、学び深めの場を設定する。	・授業ではじめに授業の目標が示されている。 ・普段の授業で終末に学習内容を振り返る活動を行っている。	98%	98.2%	・全職員で共通理解し「課題」「ポイント」などのプレートを使った授業が定着できた。1時間の授業の中で学び深めまで更にこだわっていく必要がある。	・職員が共通理解し、「北中の授業はこれだ！」というものが明確になっている。さらにそれが生徒にも浸透している。	・生徒にとって必然のある課題づくり、見通しにつながるポイント、終末の「学び深め」や定着の内容を教科部で検討する。
	2				95%	93.6%			
	3		・授業では、必ずペアやグループ、集団での話し合いの場を効果的に位置付ける。その際、思考が深まるようコンテンツを取り入れる。 ・考えて書く活動を位置付け、考えを明確にしたり、整理したりして習得を図る。	・普段の授業で自分の考えを発表する機会や書く活動、生徒の間で話し合う活動をよく行っている。	90%	99%	97.5%	・ペア、グループなど生徒間で話し合う活動を積極的に位置づけ、自分の考えを述べる機会をきちんと位置づけることができた。また、自分の考えをはっきりさせるために書く活動を位置づけたり、学習した内容を自分で整理し書いてまとめたりする活動を行うことができた。	・「北辰の集い」で堂々と語る生徒の姿や「ふるさと夢会議」での北中生の提言は大変素晴らしい。 ・少人数集団での効果的な話し合いの場や方法をさらに検討し、取り組む。 ・書く活動をどの場でもどのように位置づけるとよいかなど教科部で検討する。
	4	○基礎学力の確かな定着と低学力の生徒へのきめ細かい指導援助に取り組む。	・数学、英語では、TTを実施し、個に応じたきめ細かい指導援助を行う。 ・プリントを活用して計画的に単位時間の定着テストや単元テストを実施する。	・TTの授業は、丁寧でわかりやすい。 ・授業の中で、iプリント等を利用して練習問題に取り組んだ。	75%	85%	83.1%	・数学、英語を中心にTTでの授業を行っているが、T2の活用をどのように行うのか更に検討する必要がある。	・T2の生徒への関わり方(場面や方法など)を少人数等授業改善委員会で考え、個別支援をより積極的に行う。
	5				90.6%	*	95.4%	・数学では、終末の定着問題として、あるいは教科書の練習問題の補充問題としてiプリントを利用している。	・先生方がこだわって指導に徹していることが、学習内容の定着につながっていると感じている。
	6		・一人ひとりの理解の程度を把握し、個に応じた補助資料を提示する。	・先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところを分かるまで教えてくれる。	80%	98%	94.8%	・一人ひとりの理解の程度を把握し、ヒントカードや補助資料を用意することを心がけた。	・生徒の実態把握をもとに、授業の導入時に、具体物や資料の提示を工夫することやヒントカードや補助資料の活用方法を検討する。
	7		・朝夕学習や夏季休業日に補充学習を実施する。		100%	*		・今年度も夏季休業中に、各学年9日間の学習相談日を実施できた。毎週月曜日の放課後30分間の「夕学」を実施した。	・来年度も、夏季休業日の補充学習、土曜授業日の補充学習を効果的に利用する。
	8	○学習規律の徹底と学習習慣の確立に取り組む。	・段階表を作成し、聴く・語る姿を徹底してつくりあげる。	・普段の授業で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	95%	93%	84.4%	・話し合う活動を意識的に位置づけているが、生徒の意識として仲間の意見を聴くことによって考えが深まったという実感が弱い。	・段階表の活用の仕方を学習指導部から提案するとともに、全職員が常に意識して、授業展開を行うようにする。
	9		・学習委員会のギネスの取組を通じて、聴く・語る姿の定着と習慣化を図る。	・友達の話や意見を最後まで聴くことができる。	94.7%	93%	94.2%	・「聴く・語る」が生徒に定着しており、話し手に顔を向けて聴こうという姿勢が見られる。	・「聴く」の取組や評価の内容を見直す。「語る」と一体で行い、「聴いた」ことを生徒自身の発言につながる指導を行い、話し合いのスキルを育てていく。
	10		・「北辰」の記述や家庭学習の手引き(内容や目安)を活用し予習、復習を徹底する。	・家庭学習で予習・復習を1時間以上する。	94.1%	80%	81.6%	・今年度も、自分に合った家庭学習ができるように「家庭学習のてびき」を作成し、配付した。各学年・学級で家庭学習を確実に進めるように指導した成果が出ている。	・宿題の指導については、全校一斉指導日を設ける。また、宿題をためてしまうことのないように、丁寧な見届けや個別指導の充実を図る。
	11	○主体的に読書しようとする指導の充実と習慣化に取り組む。	・朝読書や読書励行に努め、読書の習慣化を確立する。	・読書は好きだ。	92.1%	80%	70.9%	・昼休みに「シエスタ」を実施していることで図書館の開館回数が減り、以前に比べ貸出冊数が減っている。月曜日の朝読書は継続している。	・各学級で年間貸出冊数目標を定め、図書館利用を促す。
豊かな心の育成	12	○マナーや規範意識を身に付けさせるとともに、生徒理解に努め、信頼関係を深めることに取り組む。	・登下校時、授業、部活動において、全員が進んであいさつができるように指導を徹底する。	・北中の生徒は、よくあいさつをしている。	95.2%	90%	77.9%	・あいさつをよくしていると回答した生徒が減っている。アンケート後に意味指導などを再度行ったが継続していく。	・年々地域での交通マナーが向上している。
	13	○自他の大切さを実感できる環境づくりに取り組む。	・北中中人権宣言や人権の5観点を核とした全校集会を学期毎に実施する。	・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	89.3%	100%	97.9%	・「岐阜県基本方針」の改正にあわせ「いじめ防止基本方針」の見直しを行った。また、定期的に生活アンケートにより、気になる事案に対しては即時対応できている。	・人命救助や車いすの方への支援など心温まる行いが増えている。
	14	(いじめの早期発見と早期対応の徹底)	・朝、帰りの会で仲間のよさの認め合う場を位置付ける。	・自分にはよいところがある。	86.1%	85%	75.5%	・「キリスト」として、毎日の昼の放送で生徒のよさを紹介できた。	・生徒のよさを見つけ、価値づけの声かけに一層努める。「キリスト」の紹介を継続する。
	15	(不登校を出さない組織と支援体制の確立)	・生活アンケートを年4回実施し、生徒の悩みを把握する。また、帰りの会が終わっても10分程度は教室で生徒の相談を聞く。	・学校で友達に会うのは、楽しい。 ・先生は悩みや話を聞いてくれる。	100%	98%	97.9%	・有意義な学校生活を送ることができている。	・生徒の変化を見逃さず、適宜声かけや相談できるようにする。
	16		・毎週金曜日、主任会を実施し、生徒の情報交換と対応について検討する。	*	*		・帰りの会終了後の10分間の生徒との交流に学級差がある。どの学級担任も同歩調で進める。	・「ネット依存」に起因した不登校が増えていると聞く。ネット利用に関する指導をさらに充実してほしい。	・帰りの会後の生徒との会話時間の確保に今後も努める。
	17							・生徒の情報交流ができ、報告・連絡・相談を普段から大切にできている。	・主任会を定期的に行い、生徒の情報交流や対応について検討する。
	18	○生徒会活動の充実と行事へ活気をもたせることに取り組む。	・プロフェッショナル掃除を目指し、師弟同行で清潔な学校環境を整備する。 ・生徒会が中心となり、スポーツ、合唱、北辰の集いの内容を充実し、生徒の達成感、充実感につなげる。	・自分は進んで掃除に取り組み、校内美化に努めている。	95.5%	98%	92.9%	・人権集会で掃除の仕方や意味などを取り上げ、全校で見直しをおこなった。	・掃除開始までの時間の過ごし方などが形骸化しないように、委員会などでその意味を考えて活動できるようにする。
	19			・みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	100%	98%	94.2%	・3大集いなど、生徒会を中心に生徒主体の取組ができている。合唱の集いを今年度よりコンクール形式に変更実施した。	・引き続き、生徒主体の運営と日常生活の充実に重点を置き、生徒の充実感、達成感につなげる。
20	○ボランティア活動を推進し、学校と地域の連携に取り組む。	・地域からの学校支援と学校からの地域支援の双方のボランティア活動を展開する。	・今住んでいる地域の行事に参加している。	96.4%	85%	82.2%	・親子運動会に80名、夏まつりに40名、北地区防災訓練に30名の生徒がボランティアと参加し、地域の方と活動できた。また、土曜授業日に2回資源回収を実施し、地域に貢献する活動も実施できた。	・今年も多くの生徒がボランティア活動に参加してくれて助かった。また、双方向という点では今年初めて1年生調理実習に参加していい刺激をもらった。	
多忙化の解消	21	○働き方改革プランの実行と検証に取り組む。	・出勤、退勤時刻を把握し、時間外業務の削減を図る。 ・早期退勤日の設定と徹底を図る。	・平均残業時間を月70時間以内にする。 ・早期退勤日は、19時まで全員が退校する。	87.5%	*		・早期退勤日の徹底はできたが、平均残業時間を月70時間以内には不十分であった。(月平均70時間以上の職員が15名、全職員の月平均は66.7時間であった。)	・早期退勤日である水曜日に学級の日や委員会を位置づけ、放課後はできるだけ部活動を行わず職員の業務時間を確保する。(他の曜日にしわ寄せがいかないように)
	22		・8タイム制による業務の精選と部活動の休養日を設定する。	・部活動は、平日1日、休日は1日以上休養日をルール化する。	92.5%	*		・タイム制を実施し、会議の精選ができた。部活動の実施回数や時間など部活動ガイドラインに従って改善が進んでいる。	・部活動については部活動ガイドラインに従いさらに改善を進める。(原則として、土日どちらかは休養日にする)
	23	○北中教育への満足度の向上に取り組む。	・ホームページの随時更新と学校便りを通じて、情報を提供する。	・学校に行くのは楽しい、北中の教育に満足している。	*	85%	88.0%	・ホームページの掲示板への記事掲載回数が今年度は約130回と適宜更新し、情報提供に心がけた。	・引き続き、生徒の活動紹介をホームページの掲示板で行うとともに、保護者へ紹介をしていく。

→3段階(○10,△5,×0)で評価した平均値を10倍

→○、×で評価した○の生徒の割合